

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, November, 2006

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

11月の状況 (佐藤)

C/2006 M4 (SWAN) (写真 a)

11月7日、熊本県の宇都宮章吾氏はOAA彗星メーリングリスト(以下 oaa-comet ML)で、「今夕の、C/2006 M4 (SWAN)の眼視観測です。ヘルクレス座のM92と同等の光度と集光を少し強くした形状でした。満月後の夕空での彗星搜索で、今夕は、月が出るまでの15分位の短時間ですが、暗い空があり、最重要搜索日にしています。明日は1時間くらいに延びてきます。」と報告した。

ところで、IAUC 8772によると、先月の増光の原因が分裂であったことが報じられ、CBET 738では、本体に対する分離した破片群の距離予報がZ. Sekanina (JPL、カリフォルニア工科大学)によって発表された。

2006 Nov. 11, 距離 5", 位置角 39°; Nov. 21, 9", 35°; Dec. 1, 13", 31°;
Dec. 11, 17", 27°. (0h TT、2000.0 分点)

また、11月20日、小規模なアウトバーストが起きたようだ。海外の彗星メーリングリスト(comets-ml)に投稿したスペインのJose Pablo Navarro Pinaの画像を見ると、明かに光度が増しているようであった。しかし、増光を捉えた観測者は少なく、眼視観測の報告はなかった。

報告されたC/2006 M4 (SWAN)の眼視観測は次のとおり。

2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Nov.	5.42	6.0	8	5	-	-	4/5	-	10×7cmB	上原貞治	快晴 月明
	7.40	6.5	8	6	-	-	4/5	4/10	16×7cmB	宇都宮章吾	
	9.43	6.4	5	5	-	-	3/5	-	10×7cmB	上原貞治	快晴
	9.44	7.7	5	6	-	-	3/5	5/10	25×10cmB	佐藤裕久	
	24.41	8.1	5	6	60	30°	3/5	4/5	60×20cmR	関 勉	
	25.46	8.2	4	4	-	-	3/5	7/10	25×10cmB	佐藤裕久	

4P/Faye

11月を通して9等から10等台前半の光度で推移した。

スペインのJuan Jose González Suarezは、11月9.84日 UT、25×100 双眼鏡で、全光度9.3等、Dia. 4、DC 4、尾はp.a. 280°に0.2°; 16.85日 UT、20 cm SCT (77x)で、全光度10.1等、Dia. 3.0、DC 5、尾はp.a. 280°に0.1°; 25.88日 UT、25×100 双眼鏡で、全光度9.8等、Dia. 3、DC 5、と観測している。

報告された4P/Fayeの10月からの眼視観測は次のとおり。

	2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	18.77	9.7	2	4				4/5	5/10	16×7cmB	宇都宮章吾	
	20.77	9.7	2.5	4	5			3/5	4/10	16×7cmB	"	
	31.64	9.8	3.9	7	-	-	-	-	-	36×40cmL	吉田誠一	
	31.73	9.8	2	5	-	-	3/5	5/10	25×10cmB		佐藤裕久	
Nov.	9.45	10.2	2	3	-	-	2/5	2/10	25×10cmB		"	
	24.45	9.3	3	6	-	-	3/5	4/5	60×20cmR		関 勉	
	25.47	10.2	2	3	-	-	3/5	7/10	25×10cmB		佐藤裕久	

25×15cmB を併用

P/2006 T1 (Levy)

11 月に入ってから、非常に暗く淡くなったという報告が聞かれた。また軌道にも変化が見られた。11 月 17 日、高知市の村岡健治氏から oaa-comet ML に「11 月の残差は、少し変な感じですが、これも消えゆく彗星特有のことでしょうか？」と改良した軌道要素と残差が報告された。11 月の残差を見ると約 3 ほどのバラツキが見られた。CCD 観測者の間でも重心が取りにくく測定に苦慮しているようであった。筆者が 10 月 2 日から 11 月 13 日までの観測を元に計算したもので、10 月までの軌道に対し、11 月 9 日頃から赤経側に約 +9、赤緯側に約 -3 のズレが生じてきた。その後は急激に減光していった。

発見・検出彗星は次のとおり。

C/2006 V1 (Catalina)

11 月 11.49 日 UT、Catalina Sky サーベイのコースに外見上小惑星状の天体が発見された。翌日、Mt. Lemmon の 1.5-m 反射で得た画像から彗星状であることがわかった。(IAUC 8774, 2006 Nov. 14)

C/2006 W1 (Gibbs)

11 月 16.40 日 UT、Alex R. Gibbs は、Catalina Sky サーベイの 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から彗星を発見した。(IAUC 8775, 2006 Nov. 18)

高知市の村岡健治氏は、11 月 21 日までの 39 個の観測から、短周期彗星である可能性を示唆した。はたしてどのような軌道に落ち着くのだろうか。

P/2006 W2 (LONEOS) = P/2001 WF₂

11 月 22.19 日 UT、E. J. Christensen (JPL・アリゾナ大学)は、Catalina 0.68-m Schmidt 望遠鏡で P/2001 WF₂ を検出した。MPC 51822 の予報に対し T = -0.05day である。(IAUC 8776, 2006 Nov. 20)

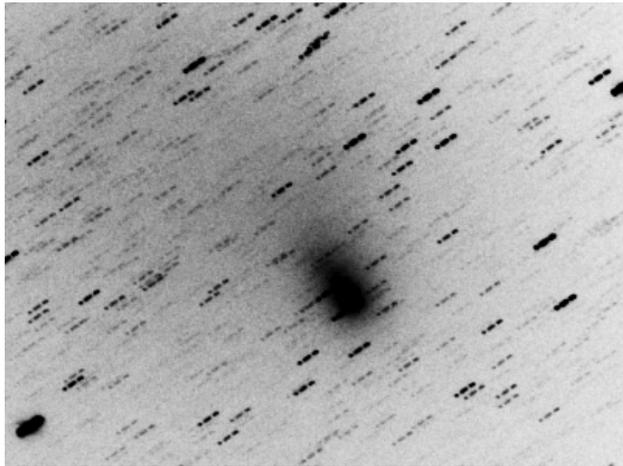
C/2006 W3 (Christensen)

11 月 18.40 日 UT、Eric J. Christensen は、Catalina Sky Survey の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た 60 秒×4 枚の CCD 画像から 15 のコマと p.a. 70-100° に向って少し伸びている彗星を発見した。(IAUC 8777, 2006 Nov. 20)

P/2006 W4 (Hill)

11 月 22.34 日 UT、Rik E. Hill は、Catalina Sky サーベイのコースに彗星を発見した。この天体は西北西に 15 の尾がある。(IAUC 8779, 2006 Nov. 23)

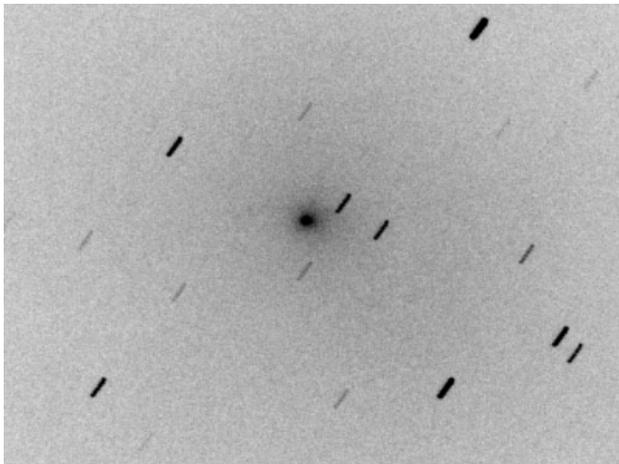
その他比較的明るい彗星は、C/2006 P1 (McNaught) (写真 b)、C/2006 L1 (Garradd) (写真 c) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 (写真 d)、などであった。



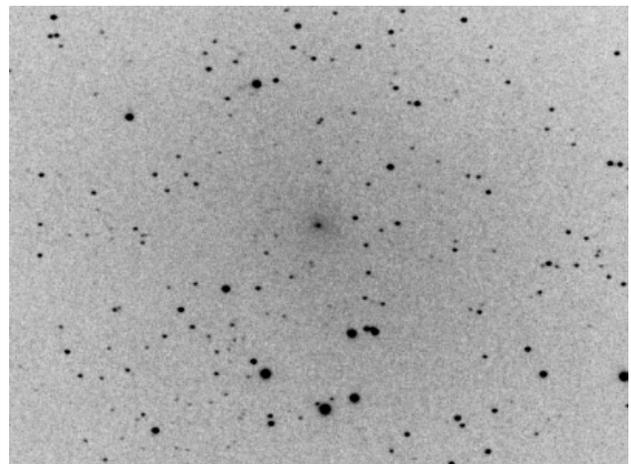
(写真 a) C/2006 M4 (SWAN) 2006,11,24
18h 20.0m~31.5m (JST) exp.60s x6 MN61 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



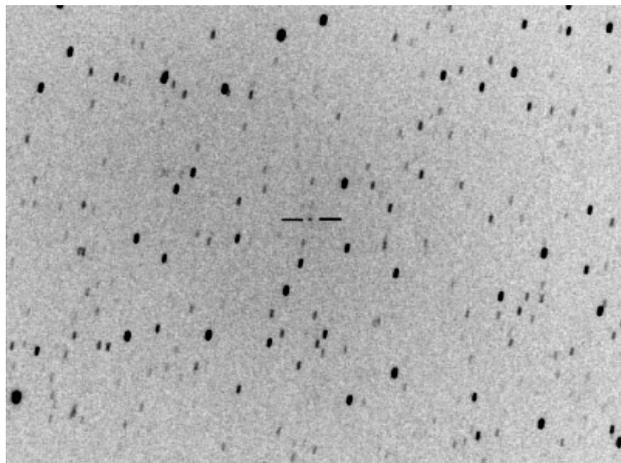
(写真 b) C/2006 P1 (McNaught) 2006,11,26
16h 45m(UT) exp. 25s x2 25cm Schmidtcamera + CCD
© 2006 Michael Jäger + Gerald Rhemann



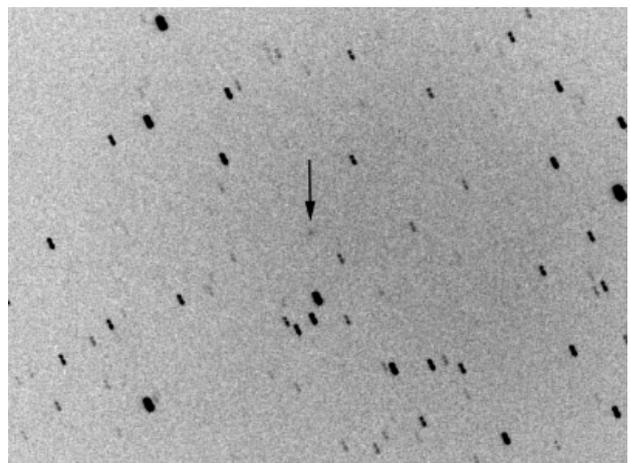
(写真 c) C/2006 L1 (Garradd) 2006,11,25
0h 40.0m~48.5m (JST) exp.60s x6 MN61 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 2006,11,24
23h 10.0m~18.5m (JST) exp.60s x6 MN61 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 e) 112P/Urata-Nijima 2006,11,24
23h 40.0m~48.5m (JST) exp.60s x6 MN61 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 f) 76P/West-Kohoutek-Ikemura 2006,11,25
0h 20.0m~28.5m (JST) exp.60s x5 MN61 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏